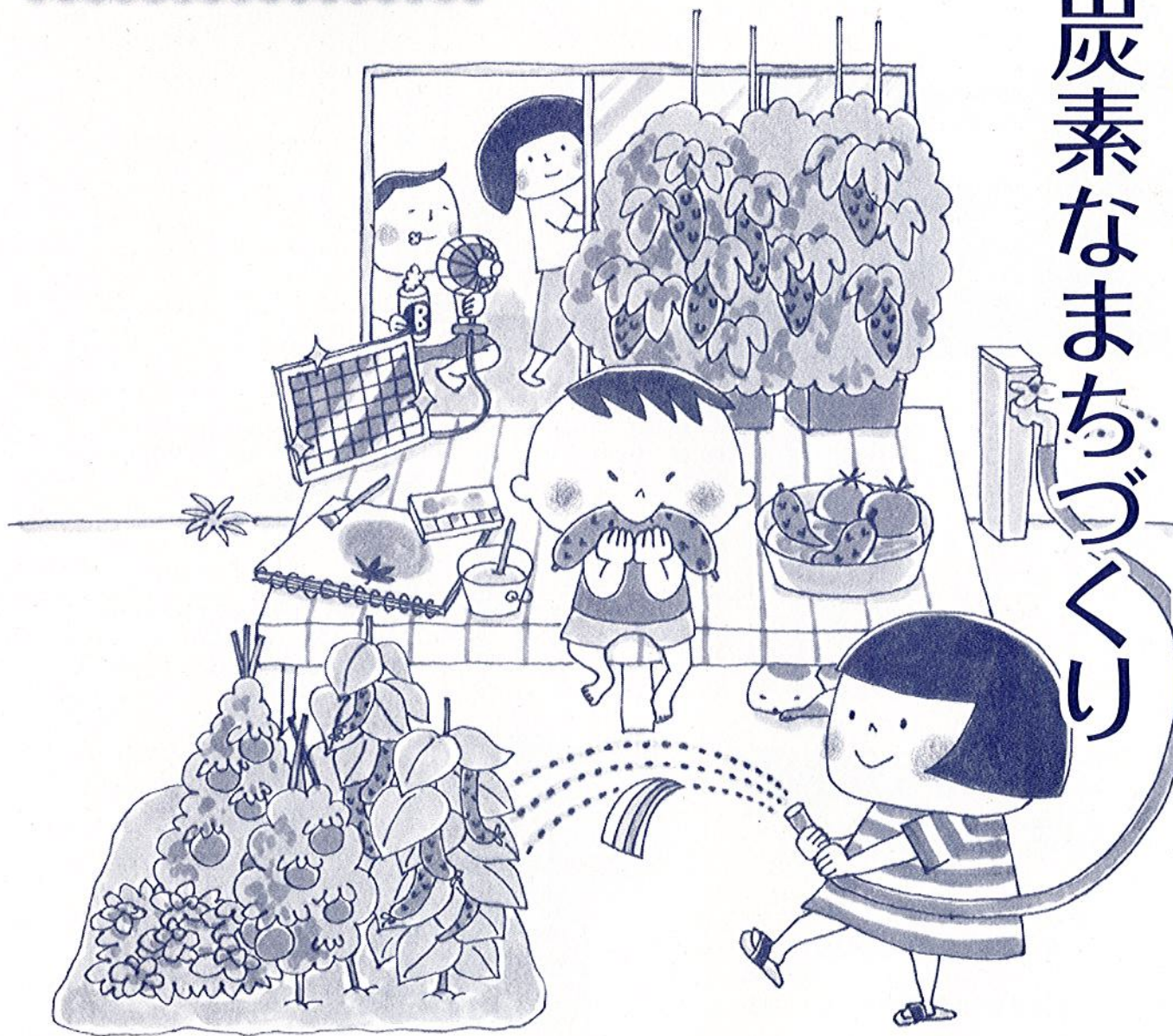


# わおん 通信

2015  
夏号  
vol.17

特集

## 「買い物・サービス」ではじめる 低炭素なまちづくり



### CONTENTS

P2 - P3

#### 県内地域の取り組み

「消費」に新たな付加価値づくり  
にぎやかな会場で今年も啓発  
こどもたちが主役！発電・初体験  
ビル内部でエネルギー自給

第3回 推進員マツちゃんの  
あ～したら、こ～なった！

P4 - P5

#### 「買い物・サービス」ではじめる 低炭素なまちづくり

P6 県情報

わかやまこどもエコチャレンジ

P7

推進員さん訪問記⑬  
なるほど ザ・ワード

P8

INFORMATION

## 「消費」に新たな付加価値づくり

2015年5月20日  
「環境貢献型商品」の作り方  
「環境省公募事業説明会 in 和歌山」

県民交流プラザ・和歌山ビッグ愛にて、開催されました。カーボン・オフセット（※1）を付帯させた商品に対し、1商品あたり上限50万円の補助が出るというこの事業説明会には、カタチある「商品」及びカタチの無い「サービス」など、対象となるモノを扱う個人事業主や法人・団体関係者など、35名の参加がありました。

説明会の主催、「木の国エコ・リレー推進協議会」副会長よりカーボン・オフセットの概要説明のあと、この公募事業の「プロバイダー」と呼

ばれる、環境貢献型商品（※2）の開発から、公募申請・販売促進に至るまでをトータルに支援する、「株式会社eプランニング（環境省オフセット・プロバイダープログラム参加事業者）」の代表から、詳しい説明がなされました。この事業に対する関心の高さを示すように、質疑応答では次々と質問の手が挙がり、参加者の半数以上が公募に参加表明しました。

（※1、2…本誌4・5面をご参照ください。）



## にぎやかな会場で今年も啓発

2015年6月7日  
「元気ゆら！ふるさとフェスティバル」

【推進員 清水 友(エコネット紀中)】

今回で6回目の出展となる「元気ゆら！ふるさとフェスティバル」。この日は晴天に恵まれ、午後から雲が出てきて、涼しく心地よい啓発活動日和になりました。今年も明るさや電力の比較を、いろいろなタイプの照明器具を使った装置で体験コーナーを設置。出展当初は、珍しかったLEDも、最近は、よく目にするようになり。「うちも、LEDに替えたよ」という声も聞くことができました。アンケートの記入をお願いして、いよいよ夏本番に向けて、節電の意識をもってもらえるよう啓発に取り組みました。また、向かいのテントでは子ども

も達向けのクラフト体験ブースで賑わっていました。そろそろ来年あたり、エコネット紀中もエコキッズ企画の始動ができるといいな！と感じた1日でした。



## 子どもたちが主役！ 発電・初体験

2015年6月21・22日  
「ごみと環境フェア」(白浜町)

【推進員 城 保宏(NPOアタック・メイト和歌山)】

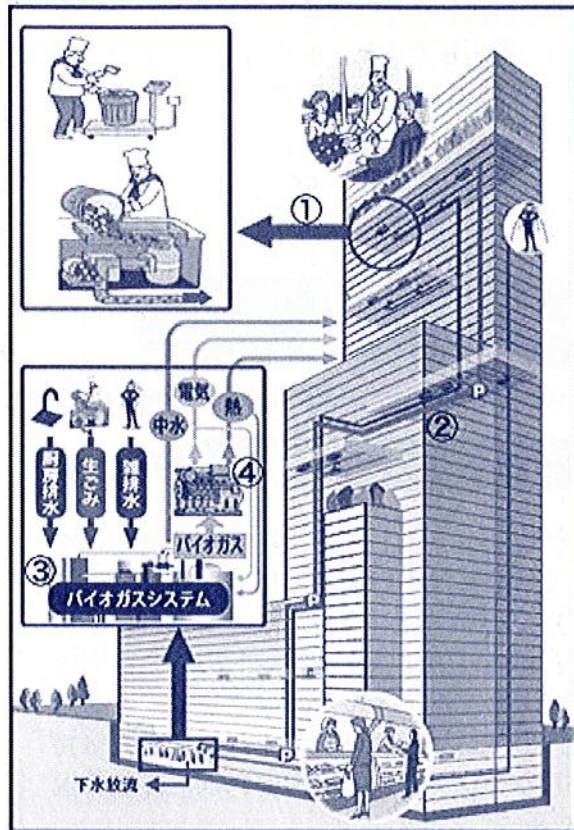
今年で19回目となる白浜町主催のイベントに初出展しま

した。会場内は「ごみやエコ」に関するポスターや展示物など、小学生たちの作品がずらりと並びました。私たちの用意したブースでは、初日は「地球温暖化について」映像を用いながら紹介。翌22日は「発電」をテーマに体験コーナーを5種用意。この日集まった町内8校からの小学生176名のうち各校代表者が体験。子どもたちは初めての発電体験に喜び、とても有意義な学習機会となりました。こういった取り組みをこれからも継続的に実施していきたいと感じた1日でした。



訪れたのは日本一高いビル「あべのハルカス」。ビル内部の百貨店やホテルから出る生ごみを、エネルギーに変えて活用するしくみは、高層ビルに初導入されたものです。この「バイオガスシステム」でつくられた熱や

バイオガスシステム図



新エネルギーの最新事情を学ぶため、推進員を中心に14名が参加しました。

## ビル内部でエネルギー自給

2015年6月18日

「あべのハルカス・バイオガス設備見学研修会」

【推進員 黒井 成男(伊都・橋本地球温暖化対策協議会)】

電気は、再びビル内で活用されます。この日、見学したバイオガス発酵槽は生ごみ処理によって独特な臭いを発していました。参加者らは「普段見られない機会であり大変勉強になった」との声。当協議会も再生可能エネルギーの普及拡大に向け、これまで様々な設備を見てきましたが、新たにメタン発酵によるバイオマス利用の有用性も知ることができ、さらに模索をしていきたいと思いました。



第3回 推進員  
マツちゃんの

## あ～したら、こ～なった!

その10本の水銀灯はもう10年くらいは“曇天になると昼間でも点灯していた”と思います。県立那賀高校前にある県道沿いに立っている水銀灯です。私は自転車を走らせながら「高校生の安全を考えて暗くなる前から点灯しているのか?」とも思っていました。

5年くらい前ですがその県道で工事がおこなわれていて、自治体の職員らしき人に「10本の水銀灯が曇天の日には午前中からでも点灯していますよ」と話しかけました。職員は「一度、調べてみます」との対応でその場は終わりました。が、一カ月が過ぎても半年が過ぎても曇天の日には昼間から点灯していて、変化はありませんでした。

そして2年余り前に今度は私の家の前で道路工事があり、県の担当者とも打ち合わせ等で顔見知りとなりました。そこでまた10本の水銀灯のことを話してみました。約2週間後、「おや、今日は曇天なのに水銀灯は点いていないぞ!」。担当者に聞いてみると「センサー部分が曲がってしまって暗い所で感知していたので、外光が弱くなるとすぐに反応していた」とのことでした。以来、10本の水銀灯は正常に点灯しています。

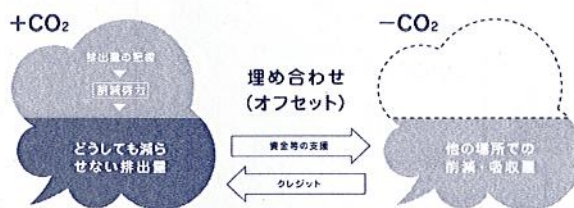
このコーナーでは推進員の方々のCO2削減活動を募集しています。ぜひ、「私はこんな活動をしました」という声をお寄せください。

# 「サービス」 つめる まちづくり

サービスを利用するとき、あなたは「毎日のお買い物」で低炭素社会「オフセット」について特集。どの内ではどんな取り組みが行われて

## 「カーボン・オフセット」とは？

日常生活や経済活動において避けることができない CO<sub>2</sub> 等の温室効果ガスの排出について、まず排出状況を正確に知ることから始め、次いで排出量が減るよう努力したうえで、それでもどうしても削減しきれない分について、他の主体が正規に認定されたプロジェクトを通じ減らした温室効果ガスの削減量（これをクレジットといいます）を購入することにより、実質的に自分が排出した分を埋め合わせするという考え方は、欧州や米国、豪州等で活発に取り組まれており、日本でも民間での取り組みが拡がりつつあります。（環境省 Web サイト）



## カーボンオフセットの意義

日本で正規に認められたクレジットとしては、省エネや再生可能エネルギーへの転換などにより温室効果ガス排出量を削減したものや、森林を健全に育てて CO<sub>2</sub> の吸収量を増やすことで実質的に削減したと同等とみなすものなどがあります。クレジットの代金は温暖化対策に役立つほか、地産地消の自然エネルギー系クレジットを購入すれば地域振興に、森林系のクレジットを購入すれば森林の維持や山村の振興に、また途上国のクレジットを購入すればその国の温暖化対策と経済の低炭素型成長につながります。

## 対象となる商品／サービスは？

売買されるすべての商品やサービスが対象です。具体的には、ある商品やサービスを提供するため、どうしても排出してしまう温室効果ガスの全部または一部を、その価格にクレジット代金を含ませることで埋め合わせます。例えばクレジット代金が CO<sub>2</sub> トン当たり 5,000 円とした場合、一個 100 円の商品を作るのに CO<sub>2</sub> が 1 kg 出してしまうとすれば、1 kg 分の 5 円を商品の価格に含ませることになります。この場合、価格を 105 円にして消費者に負担してもらう方法と 100 円に据え置いて製造業者や販売業者が負担する方法があります。



ガシ (幹の大きさ 434cm)

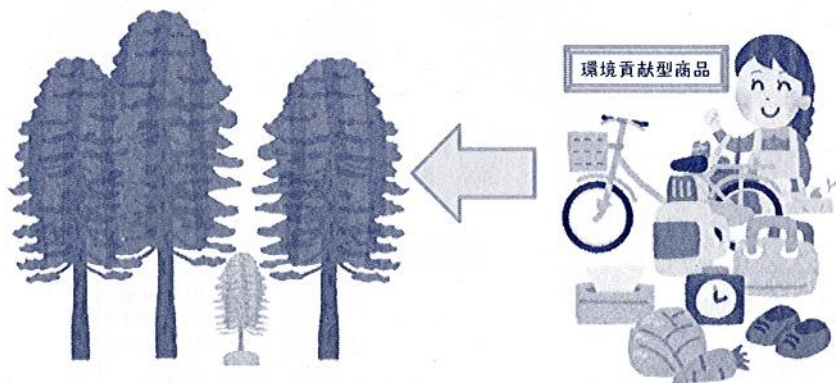
### 「環境貢献型商品」とは？

最近、よく見かける「寄付つき商品」をご存知でしょうか。東日本震災以降、特に注目されているしくみで「この商品を購入すると〇〇に△△円が寄付されます」というものです。これと似たような感じで今年から、カーボン・オフセットを行った商品が「環境貢献型商品」と銘打って全国のお店に登場する予定です。毎日のお買い物、同じ買うなら、地球温暖化防止に貢献するとともに地域振興にもつながる商品を選びたいものですね。



### 和歌山ではどんなクレジットを使うの？

和歌山県内でのカーボン・オフセットを推進する「木の国エコリレー推進協議会」が取り扱うクレジットは、環境省の認証を受けた和歌山県内の森林吸収系クレジットです。和歌山県産の「環境貢献型商品」が流通し始めるのはまだこれからですが、ひと目でわかるロゴマークがついて売り場に並ぶ予定です。このマークがついた商品を購入すると、自動的に相当分の費用が県内の森づくりや山村の振興に役立てられ、同時に地球温暖化防止にも貢献できることとなります。



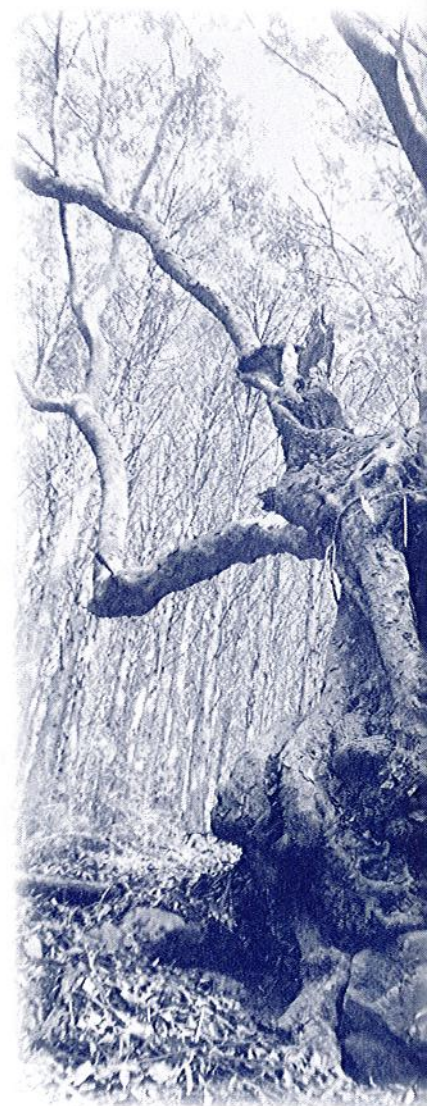
### 木の国エコ・リレー推進協議会とは？

和歌山県内でカーボン・オフセットを広く活用することを目的に2014年8月に発足。「環境貢献型商品」などカーボン・オフセット商品やサービスをもっと普及させるために、クレジットを創出する森林の側と、クレジットを活用したい事業者や市民を結んで活動しています。事務局はNPO法人わかやま環境ネットワーク内。詳しくは「木の国エコ・リレー推進協議会」

webサイト<http://kinoeco.jpn.org/>

# 「買い物・ ではし 低炭素なま

いろいろな物を購入したり様々  
は何を基準に選んでいますか。今  
会づくりに貢献できる「カーボン  
ようなしくみなのか、また和歌山  
いるか、紹介します。



和歌山県広川町にあるア...

# レッツecoチャレ

## わかやまこどもエコチャレンジ

おうちの人といっしょにやってみよう！

県は、これまで県民に地球温暖化防止活動についての情報提供・啓発を行ってきましたが、関心の高い層が熱心に活動する一方、関心の低い層も少なくない状況です。そういう大人に対しては「子どもから大人へのはたらきかけ」がポイントであり、子どもたちのエコ活動に大人が感化される仕組みをつくるのが重要と考えました。そこで、子どもを家庭でのエコ活動の率先者として、子どもを中心に家族一緒に楽しみながらエコ活動に取り組み、一人ひとりの環境配慮行動を促進する「わかやまこどもエコチャレンジ」を実施することにしました。

子どもにとっては、資源の有効活用（4年社会科）や環境に配慮したライフスタイル（5年・6年家庭科）についての体験学習になります。大人にとっては、環境への配慮のきっかけとなるとともに、節約にもなります。一石二鳥の取組です。

対象は、県内全小学校の4年・5年・6年生

（約2万5千人）です。具体的な取組内容は、

- ①おうちの中にエコシールを貼ります（何をするとエコなのか、エコが見えるようになります）。
- ②夏休みの期間中に、家族と一緒に「節電」「節水」「ごみ減量」等のエコ活動に取り組み、結果をチャレンジシートに記録します。
- ③取り組んだエコ活動をエコチャレンジ活動レポートにまとめます。そのレポートを県に応募します。

県では、優秀なレポートを選出します。これを学校の集会などで表彰してもらうことで、一家族のエコ活動が、学校規模に広がります。また、その優秀なレポートを県の施設等に展示し、広く一般に周知・啓発することで、この取組の輪を広げていきます。



レッツecoチャレ わかやま  
こどもエコチャレンジ  
おうちの人といっしょにやってみよう！


2015 夏、わが家のエコプラン  
地球にやさしい行動に挑戦することを「エコチャレンジ」と呼びます。  
この夏、「節水」「節電」「ごみ減量」に挑戦だ。  
次のページでエコチャレンジを始めよう！

スタート、エコチャレンジ！  
毎日のくらしの中で出される二酸化炭素によって地球の気温が上がっています。  
エネルギーを節約し、環境にやさしい生活を始めましょう。  
おうちの人と協力して、7台星のエコライフに挑戦だ！  
合い言葉は「薄着で楽しく、エコライフ」

グリーンカーテンのキャラクター  
「みゆの「ゴーヤん」です！

年 組 番 名前 ( )

◆このチャレンジシートや「活動レポート」ができたら、担任の先生に提出して下さい。



自分たちができる  
節水・節電・ゴミ削減  
にチャレンジしよう！

ステップ1 おうちの中にエコシールを貼る

エコシールを、おうちの中に貼っていきこう。  
シールをはがして、エコする場所に貼る。

発見シールには、自分で考えたエコを書いて貼ろう。

★エコシールは、貼ったのびがはれたりできて、水にぬれてもとれないシールだよ。

ステップ2 エコマークに色を塗る

1. エコができたなら「エコマーク」を1つ塗る。  
2. 日にちとエコ活動をした人の名前を書く。

今日まで毎日  
みんな頑張  
り続け！

やるまで毎日  
いっしょに  
エコライフ

おうちの人といっしょにエコ活動をしよう。  
エコができたなら「エコマーク」をどんどん塗る。

エコマーク

節水 節電 ゴミ削減

コジローの

# 推進員さん<sup>ひよっこ</sup>の訪問記<sup>13</sup>



田辺市 笠松 美奈 さん

大阪府茨木市出身の笠松美奈さんが大学を卒業し、就職のため田辺市にやってきたのは15年前のこと。地方紙記者として社会人のスタートを切ることとなった同地は、ご両親の出身地で幼いころから親しんだ鳥取に似て、懐かしく感じたそうです。

それから5年、田辺市での暮らしに慣れ友人も増えてくる中で、自分が本当にやりたかったことをめざそうと退職。知人が経営するカフェと美容を兼ねた店で働きながら、もともと好きだった音楽活動など模索するうち、たまたま遊びに行った六甲でフェアトレードの店に出会い、衝撃を受けます。

「地球レベルの問題ってすごく遠いって思ってたけど、買い物ってみんな毎日する事でしょ」「それが世界の問題解決に繋がるってすごい！」

以後、アルバイトで生計を立てながら仲間たちと準備し9か月後、田辺駅前にフェアトレード&エコロジーの店「びーす」をオープンさせました。

そんな活動のさなか、環境活動家である田中優さんの講演会が、商品仕入れ先の「ピープルツリー」(東京)を通じ紹介されます。といっても会場は東京ですから、わざわざ行くのも…、とと思っていたところ、たまたま帰省した大阪の書店で田中さんの著書を発見、他の環境関連本とは違うおしゃれな装丁にも惹かれて購入したところ、分かりやすい内容と説得力のある主張に心から共感し、遠路その講演会に出かけたのでした。

講演後、講師に近づいて田辺から来たと伝えると田中さん、なんと「田辺には明後日に行く」と仰るではありませんか。田辺市で開く推進員研修会に、田中さんが講師として招かれていたのです。笠松さんは推進員ではありませんでしたが、知り合いの推進員を通じて特別にその研修会に参加、翌年開かれた

推進員養成講座を受講修了し第4期生として委嘱されました。

推進員になってからは、紀南地域地球温暖化対策協議会が主催する啓発活動などに参加してきました。そうした活動で知識も人脈も広がり、学ぶことは多かったのですが、年齢の近い推進員や女性推進員がもっと大勢いたらと思ったこともあるそうです。

＝若い人が少ないのはなぜだと？

「忙しいのが一番大きいと思います」

＝若い人は関心が低い？

「関心はあっても目の前のことで精いっぱいなんです」「それと情報だけではダメでアート、例えば音楽とか映画とか、もっと感性で訴えることが大事だと思う」

＝笠松さんは昨年1月、初めて男の子を出産しました。心境に変化は？

「はい、気が長くなったです」「自分が思うようにはできない、できないのだから焦らない、その時にできることだけやるって感じ」

「それから、自分の子もよその子もみんな貴重な存在に思えるようになりました」「大人もそう、どの命も全部大事って本当に心から実感します」

＝これから先のことは？

「子どもを通じて出会う人たち、これまでとは全然違う新しい世界の人たちに、自分の想いを伝えていきたい」「環境でも原発でも平和でも、関心を持つ人を増やしていきたいです」

笠松さん親子も登場する映画『祝福(いのり)の海』が7月25日に田辺市、26日に和歌山市で上演されます。関心のある方は笠松さん(電 090-1733-5380)まで。

## なるほどザ・ワード

STOP温暖化・焦点の言葉 13

\*地球温暖化をめぐる報道などで、いま焦点となっている言葉を簡単に解説します

### CANと化石賞

CANは(Climate Action Network=気候行動ネットワーク)の略称です。このネットワークには90カ国以上で気候変動問題に取り組む約850の環境NGO(非政府組織)が参加しており、1989年の設立からCOP(国連気候変動枠組条約締約国会議)をはじめ気候変動をめぐる国際交渉に、主として市民の立場から関わってきました。

活動としては、参加団体で情報や戦略を共有して各国政府やメディアに働きかけるほか、高度な専門性を活か

した調査・分析に基づく提言を行ったり、各国政府代表団と個別の協議を行って市民社会の声を伝えたり、さらに対策に消極的な国の政府を批判するなど、国際交渉の進展を支援しています。

COP期間中に毎日発行するニュースレター「eco(エコ)」は会議参加者に広く読まれており、政府の交渉官がecoの記事を引用して発言することもしばしばあります。また、日々の交渉で最も後ろ向きな国の政府に対して、不名誉な「化石賞」を贈ることで知られています。

イベント案内

●わかやま「節電所」  
建設プロジェクト2015 スタート

「我が家で使っているエネルギーを知り・見直して「節電所」にしよう」という取り組みです。今年もぜひチャレンジください！

わかやま 節電 検索

- プロジェクト実施期間：2015年7月・8月・9月
- 対象：和歌山県内にお住まいの方（1家庭につき1枚となります）  
取り組み内容の取材、公表をお願いすることがあります。
- お問合せ：  
わかやま「節電所」建設プロジェクト2015事務局  
（わかやま環境ネットワーク内）  
和歌山市毛見996-2 電話：073-499-4734 FAX：073-499-4735



『土づくりからの  
未来づくりフォーラム・和歌山』

日時 2015年 10月4日(日) 13:00~16:30

場所 ホール田園 [紀の川市西大井 338]  
(紀の川市役所南側別館)

- 定員：300名
  - ・電車でお越しの方 → JR打田駅から徒歩約10分
  - ・お車でお越しの方 → 駐車場（正面80台、東側100台、北側大池100台）
- 講演会お申し込み：  
住所・氏名・連絡先・人数 記入の上 FAX 0736-63-5522  
（土づくりからの未来づくり実行委員会）（有）銀徳内
- お問合せ：・090-6904-4039(市野)・090-3261-1743(山田)

☆ 基調講演：鍵山 秀三郎 氏

(特定非営利活動法人日本を美しくする会 相談役)

1933年・東京生まれ。1961年、「ローヤル」を創業し社長に就任。1997年・東証第一部上場と共に社名を「イエローハット」に変更。1998年・同社取締役相談役に就任。2010年・同社退社。誰にでもできる平凡なことを誰にもできないほど徹底して続ける「凡事徹底」を信条とする。創業以来続けている「掃除」に多くの人が共鳴し、その活動はNPO法人「日本を美しくする会」として全国規模となるほか、アメリカ、中国、台湾など、海外にも輪が広がっている。

県センター通信

いよいよ夏本番。「節電所」建設プロジェクトを筆頭に、推進員のみなさまの活動支援に力を入れてまいります。また、各地のお祭りやイベントへの出展もさらに充実させていただきたいと考えています。参加や出展を検討されている方は、ぜひご相談ください。

今年11月から、COP21がパリで開催されます。2020年以降の新たな枠組みの国際交渉の場となる注目の機会です。この点も順次お伝えしてまいります。

2015夏号 vol.17



発行／和歌山県環境生活総務課  
〒640-8585 和歌山市小松原通1-1  
TEL:073-441-2690 FAX:073-433-3590  
mail: e0317001@pref.wakayama.lg.jp

編集・お問合わせ／和歌山県地球温暖化防止活動推進センター  
〒641-0014 和歌山市毛見996-2  
TEL:073-499-4734 FAX:073-499-4735  
mail: wenet@vaw.ne.jp



この情報誌は古紙配合率100%再生紙を使用しています。